

B-Pのことば 「善意と協力、すなわち他人への奉仕を通じてのみの人間は、真に幸福になれる。眞の幸福こそは、眞の成功である。そして、この時始めて人間は、天国は来世の夢でなくこの世に、こゝにあるものだということを知る」		「忍を行ずる者は 有力の大人である」 ——内田委員長の記事より——
--	--	---

第13回世界ジャンボリー回顧特輯号

富士山ろく朝霧高原に集う 世界の若人

相互理解で 結ぶ 友情の輪

あらしの試練ものりこえ 大成功裡に終る！



(写真提供 高倉清雄氏)

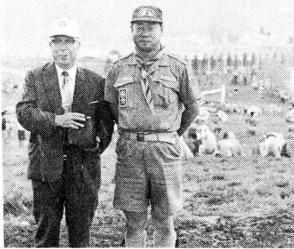
第13回世界ジャンボリーがすんでのご挨拶

地区委員長 内田時世

浜松地区の皆様、奉仕に参加した方、夫々の皆様御苦労さんでした。ライオンズ、ロータリーの皆様には多大の御援助をいただきました事を心より感謝申し上げます。尚浜松市御当局に於ては特に多大の御助成をいただき、平山市長さんには御遠路わざわざ朝霧高原の現地へおでかけいただきしかも、キャンプサイドまで御足労いただき過分の御見舞までいただきました事は忘れ得ぬ感激でございました。

長い期間中には、まれに見る連続豪雨もありました。国際色豊かな交換風景もありました。色々のことがありました。どれも一生忘れ得ぬ思い出となった事と存じます。

今回わ特に各団、団委員長さんを始め各団役員の方々には蔭でのご苦労を心より感謝申し上げ、此の第13回世界ジャンボリーが無事終了しました事を皆様のお陰と御礼申し上げて御挨拶にいたします。



平山市長と共に 筆者

世界88ヶ国、23,000人のスカウトをもって朝霧高原にくりひろげられた第13回世界ジャンボリーは「相互理解」のテーマの下世界の若人の心に友情のきづなを強く広く結んでいった。

途中豪雨というハブニングわあつたが却って絶好の訓練の場となり、更にジャンボリー会場内に於ける国際親善が避難先の御殿場、富士宮、富士市等の地域社会にまで拡大されたのも不幸中の幸いで

あった。

私も8月2日より9日迄、G H Q特別サービス部の副部長として本来の任務はもとより、種々の苦情処理の中に立たされたが、部員一同の和の心は大いにジャンボリー生活を快適なものしてくれた。

見学者又豪雨中の隊員の避難先の官舎の御礼に廻ってしみじみ感じたことは、これ等の学校、施設、自衛隊等を始め地域社会が一体となってこれが奉仕に努めていたことで「成功させよう世界ジャンボリー」の県民運動が実を結んだ成果である。日本としても又静岡県としても最大の国際的行事であった世界ジャンボリーが種々の反省はあっても総合的

浜松地区野営行事委員長

市川重雄

には充分にその所期の目的を達し得たことは喜びに堪えません。ただこれから的是ホスト、ジャンボリーの問題として、ジャンボリーを自覚して三倍増した本県のスカウト運動が単に量だけではなく質の面に於いても更に充実したものとしてゆくことであり又朝霧高原のジャンボリー会場跡地のよりよき利用、特に「青少年の夢の広場」としての活用に國も県もスカウトも挙げて努力してゆくことであろう。

最後に今回の世界ジャンボリーに浜松地区的スカウト及びリーダー、团委員の皆さんに陰に陽にその奉仕活動に献身されたことに衷心より感謝と敬意を表します。
弥栄！

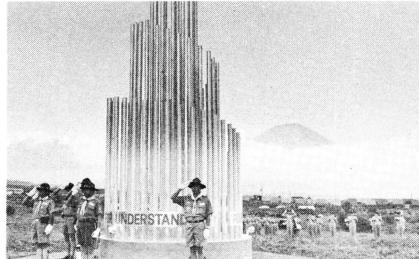
第13回世界ジャンボリーの記録

第1日 開会式 8月2日

第13回世界ジャンボリーの開会式は8月2日午前4時半から、世界89カ国27,250名のスカウトを集めて朝霧高原で力強く開幕した。「FOR UNDERSTANDING」—相互理解—をテーマとして集う若人たちの参加規模は前回のアメリカ、アイダホジャンボリー106カ国参加につぐ大会史上2番目の規模である。

これから9日間、日本の象徴、富士山のふもと朝霧高原で次々をになう青少年達が、国境を越え、人種、宗教の違いを越えて、若さあふれる祭典が展開されるのである。

午後3時20分スカウトが大集会場に集結を始めるや、緒方太助氏指揮、120人編成のワールドジャンボリー音楽隊の吹奏樂により待ちに待った開会式は始まった。



開場式一 中央広場

ジャンボリー旗を先頭として各国派遣団の入場行進がつづき日本代表今田團長清水旗手が最後尾を飾った。続くは日本ピューグルバンド、まるでお伽の国からきたような真赤な衣装、金色の帽子姿は大歓衆の眼をひきつけ、静岡第26団と新潟団で組織するファンファーレ隊が入場、

友情の鐘が場内に響きわたり、ファンファーレが吹奏されると平和を象徴するかのように各国旗が薄暮の高原にひるがえった。友情を誓い合うジャンボリー賛歌に守られる如くジャンボリー旗が入場すると、ファイヤードームに点火、友情の火があかあかと燃えあがってステージの緑の芝生を美しく描き出し放たれた8,000個の風船が夕空高く舞い上った。

夕やみに映えた營火を前に石坂泰三大会長が「きょうから9日間相互理解のテーマでその技を披露、その国の伝統を發揮し、野営生活によるスカウト最高の祭

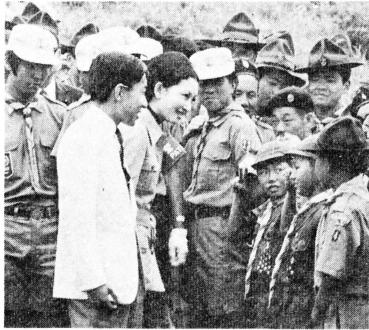
典を営んで、限りない友情の輪を広げスカウトの精神と栄誉を高めるよう期待する」と開会のことばがあり、参加スカウトを代表して東京の原田隆吉君(17)がスカウト宣言、名誉大会長代理の高見文部大臣が「富士山のように清く、この原野の広がりのように伸び伸びと豊かな心をもって新しい未来の世界に活躍するよう祈る」とあいさつ、世界委員会代表のヘンリープローフ(アメリカ)がメッセージ、竹山県知事は「300万県民を代表して心から歓迎する」と歓迎のことばを述べた。その後記念切手の贈呈、竹山知事から今回の大会開催に努力された山川富士宮市長の紹介が行われた。最後に藤山一郎氏の指揮で「第13回世界ジャンボリーのうた」村上知義氏の指揮で勝利に向ってを大合唱、エールの交換があつて2時間にわたる幕を閉じた。

しかしフィナーレに移り「勝利へのハイキング」の大合唱が終るか否や旗手の一人が会場の中央にとび出しいやさかを叫ぶやこれがきっかけとなりスタンドの各スカウト達が国旗をもって中央に殺到、旗をふりまわし、肩をくんで国歌を歌い出すなどの大さわぎ。このエールの交換は国境を越えた若人の熱気と友情の興奮のルツボと化し、あたりが完全に暗くなるまで続けられた。

第2日 競技や自然観察 8月3日



中央広場を進む



会場は3日も朝から晴れ上がり、時折り富士山も姿を見せた。いよいよ各国スカウトが待った楽しいゲームや催しが始まつた。

午前中は全員が参加するワイドゲーム。午後からは水泳、ボート、カヌー、ジャングルトレール、クロスカントリーなどのほか、いまヨーロッパで流行しているオリエンテーリングも行われた。

ジャングルトレールは各コース500メートル。各コースにハシゴやタイヤ、モンキーブリッジなどの障害を設けて時間を競うもの。参加人員500名

オリエンテーリングは会場北側の野外活動センター近くで行われた。このゲームはシルバーコンパスを使い一定時間までに設立された地図上の地点を廻るというもの。1チーム5~6人編成各チームとも富士山を間近かに仰ぐ緑の草原で慎重に位置を決めていた。

一方猪之頭養鰐場では650が参加してマス釣り、田貫湖ではボート、カヌー競争が行われた。又自然観察会には400名がバスに分乗して青木ヶ原の自然歩道を通り珍しい氷穴や風穴を観察した。

また竹山県知事は午後から各キャンプサイドを訪問して赤い陣羽織を贈ったりして親善と相互理解に一役かつた。

夜は隊交歓のキャンプファイヤーが夜空をこがし、合唱する若人の声が高原にこだまして親善を深めあつた。この夜の營火はジャンボリーに入って始めてのもので、10キャンプサイド、700隊からなるスカウト達が2・3隊づゝ合流して行われたものである。



やっとの晴れ間を見て

皇太子殿下のおことは

はじめて日本で開かれたこの世界ジャンボリーに臨み、世界各国から集まつたボーイスカウトのみなさんが、この富士の裾野につどい、互いに国を超えた友情をあたため合っていることは誠に喜びにたえません。

このたびのジャンボリーのテーマは「相互理解」であると聞きます。みなさん

によってここで育(はぐく)まれた友情と、ここで深められた理解とがやがて各国の友好親善の大きな基礎となることを信じて疑いません。

不幸にして台風の影響により予定された行事をすべて果たすことが出来なかつたのは誠に残念ですが、どうかみなさん、このジャンボリーの残された日々を有意義に過ごしよき思い出となるように望んでやみません。



強風とたたかう

第3日 外国スカウト

8月4日 富士山に挑戦

この日は朝早くから、富士登山が始まつたほか、朝からジャングルトレールやスキルオラマ、柔道、剣道などが会場の中央広場いっぱいに繰り広げられた。

富士に挑戦する外国スカウトは、アメリカ隊の647名を筆頭に、オーストラリア70名、イギリス49名、韓国48名、カナダ46名などで、午前3時20台余のバスを連らねて出発、表富士周遊道路から新5合目に到着20班にわかつて登山開始した。スカウト達は待望の富士登山に元気はつらつ挑戦したのであるが、始め快晴だった富士山の天候も次第にくずれはじめ一行が8合目附近についたときは、次第にくずれはじめ横なぐりの雨が吹きつける悪コンディションとなつたが、スカウト達は互いに助け合い激励し合つて頂上をきわめ、御殿場須走口に下山、全員元気にジャンボリー会場に帰還した。

朝霧高原は折りから日本に接近しつつある台風19号の影響で小雨がパラつく空模様のため、鞍掛山えのハイキングは中止となつたが日中の行事スキル・オ・ラマは予定通り午後1時半から中央広場で行なわれた。

この日は55の出し物が紹介されたが人気を集めたのは、アメリカのインディアン踊りであった。又手工芸員もみごとな手さばきで見物人たちをびっくりさせていた。

その夜の行事「日本の夕べ」は富士宮

市婦人会1,000名に及ぶ「元緑花見おどり」など盛りたくさんの行事が用意されていたが、6時過ぎより雨はドシャ降りとなり、7時過ぎついに延期に決定出演者も見物の人達をがっかりさせてしまつた。

第4日 自然の猛威 8月5日 キャンプに試練

前夜の「日本の夕べ」を中止させた風雨はこの日も一層激しさを加え、終日スカウト達を苦しめ、行事はすべて中止という最悪の事態になつてしまつた。

降り始めてから10数時間で雨量は100



台風に見舞われたキャンプ

ミリを越え泥水はテント内に容赦なく流れこみ、15メートル前後の強風はスカウト達が汗と友情でつくりあげたサイト内の飾りつけやアーチをへし倒して荒れ狂つた。浸水の被害を受けるものの約半数、大正サイト(約2,000名)は全面的浸水被害を受けた。一方自衛隊260名は壊れたテントの張り直し、排水の救援作業にかけつけたほか、県支援本部では毛布1,000枚を被害者に配給した。対策のため緊急会議を開いた結果8,000名を大石寺に避難させることに決め同夜8時までに2,000名余りが同時に避難させた。

世界ジャンボリーが過去12回、不測の事態でスカウトを避難させるのはこれが初めてで、松方三郎野営長から次の如き異例の激励が行われた。

「第13回世界ジャンボリーに集うスカウトは連日、元気いっぱい、明朗活発に、相互理解を深めてきた。しかし台風の影

WSと洋弓と英語

宮沢 広士

洋弓班は総勢32名、4つの会場を設けて世界のスカウトを大いに楽しませてあげようと、色々とアイデアを練って開始の日を待った。

一番心配になったのは、言葉の問題である。受け付や練習場ではどの様に説明するか、用具の説明はどうしたらよいか、和英両文でかいた説明用パネルを設置したり、各人に渡すスコアカードにも詳細に説明を英文でのせたりした。愈々解らない時は「これを読め」と云うしかないと考えたからである。

8月3日第一日が始まった。色々な国のスカウト達がやって来た。私は4会場を車で何回も巡回して、うまくやっているかどうか観察してまわった。案ずるより生むが安しである、どの会場も日本語と英語のチャンポンであるが結構何とかうまく行っている。あえてパネルを読む程の事もない。

何処の国でも箸やホークを持つことは、教えなくても解る様に弓と矢があれば、それをセットして打つことは誰にでも解ることである。私は安心した、日本スカウトと外国のスカウトが、ペアになってコースに出るのだと云う様な指示事項の方が解らせにくいくれど、「日本と日本はだめだ、日本とアザー・カントリーとペアにならぬのだ」とズバリ言えばよくわかる、余りクドクドしい説明では解らない。言葉と云うものは、自分の意志や気持を他人に解らせる為の道具である。最も適切な言葉を最も短かく言うことがどんなに大切であるかを感じた。

響によりおよそ50%が激しい自然の試練にあったが笑って耐え日頃の鍛錬を身をもって実践したことは眞のスカウティングの発露である。スカウト諸君、頑張ってくれー」

この待避に当って大石寺関係者は池田大作会長を陣頭指揮で収容接待に当り、宗教を超越した国際的友情を行動で示し避難者及び関係者より感謝された。

第5日 泥まみれ

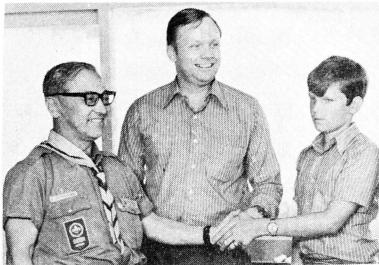
8月6日 ジャンボリー

5日より吹き荒れ、降りつづける強風雨は6日になんでも止まず文字通りの泥まみれジャンボリーとなった。

昨日に引きつき避難も行われたが、一方泥まみれのキャンプに留まり荒天の試練と、かいボイスカウト精神を發揮しテントの補強、排水処理等テキパキと実行する隊も相当数あった。特にイギリス隊は流石本家だけあってこの風雨の中キャンプに我張り通したのは賞賛された。この報を知ったイギリス本国の留守隊から「晴れている間のキャンプは馬鹿でも出来る、荒天のときのキャンプこそスカウトとしての意義があるのだ」という意味の激励電報が寄せられて苦闘する



感動



アームストロング船長親子ようこそ

スカウトは大いに勇気づけられた。

この日アメリカの宇宙飛行士アームストロング船長がアメリカ大使と共に御殿場の陸上自衛隊駐屯地を訪問。駐屯地に避難していたアメリカ隊などのスカウト約750名を慰問したところスカウト達からの大歓迎を受けた。

5日6日にわたって避難したスカウトの数は2万5千人、及ぶ大移動が行われたわけで関係者は実に不眠不休の活動が続けられ、輸送に協力した自衛隊を始めとして避難先である各機関、各業者等の協力が大きな成果を挙げることが出来たのである。

余語として、今回の台風で外国製のキャンプは風速15メートルでもろさを暴露したが日本製は風速30メートルでも耐ることが立証され外国人の人達からは買って帰りたいという希望が出てくる始末であった。

第6日 皇太子を お迎えして

大会6日目を迎える、まるで2日間にわたって強風雨に悩まされた朝霧高原はようやく晴れ間が見える天気となり、避難先からスカウト達も逐次集結し始め会場もようやく元気ハツラツとして生氣をとり

富士登山のあった日の夕刻、米国リーダーから一般行事部に電話がかかって、外国人だと云うので、私が電話口に出ることになった。聞いてみると、所属隊のナンバーがどこでキャンプサイドの名前がどうだとか云っているばかりで、要領を得ない、段々聞いて見ると自分の隊のスカウトが未だ一人富士山から帰って来ないと云う、それならそれで何故それを真先に言はないのかと、心の中で怒れて来た。電話での会話程、余分な事を云えば云う程、解らなくなるのである。

嵐の吹きさぶる朝、便所 スエーデンのスカウト達と顔を合せた、嵐の朝でよい朝ではないのに、グットモーニングと言うのであろうか、と云つてバットモーニングと云うのも変てこである、こんな時、使う言葉はモーニングサーである。グットともバットとも言わない、横合いから車が急に出て来た、こんな時に思わず叫ぶ「危い」と云うかけ声は何と言ふのだろう、なんとなく「アグナイ」と云う様に聞こえる。それでは、まるで日本語と同じではないか、よく聞いてみるとハブ・アン・アイ（目を開け）と云うのだそうだ。

マレーシヤやホンコンの方が韓国人より日本人に似ている人がいる、或る時「腹がへったネ食堂え行こうよ」とさそつたが、ボーカンとしていて返事をしないので英語で云い直したら英語で答えたが返つて来た。相手は制服をぬいでいた香港のリーダーだった。

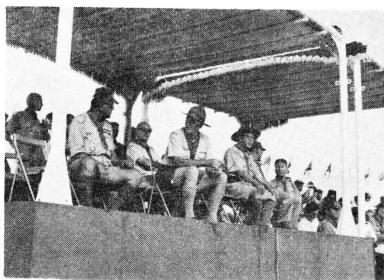
こんな毎日が続いて私達は、日本人同志でも半分英語を使う様な生活になった。日本語そのものも英語調になってしまって「それ・持つ、などと云う調子であった。お蔭で嵐も乗り越え毎日、外国スカウトとアーチェリーを楽しむことが出来た。

戻した感があった。

昨6日世界ジャンボリー御訪問予定の皇太子御夫妻は雨のため7日に変更せられ、10時会場正門ゲートえ車でお着きになり、朝霧野外活動センターにお入りになり関係者から台風の被害状況、スカウト達の避難状況などの御説明を受けられ各国代表団長、代表スカウト並びに最高尾にたったアームストロング船長ら150名と御接見になり一人一人親しみ深く握手をされた。続いて別揚の如くおことばが述べられた後、ボーイスカウトの最高栄誉とされるキジ章が松方野営長から皇太子さまに贈られた。(キジ章は外国ではニクソン大統領に、日本では佐藤首相、石坂大会長の2人に贈られているものである) それから皇太子御夫妻は会場最北の平安サイトを御訪問、イギリス隊、韓国隊などのボーイスカウトを激励された。途中でスカウト達に、出身地や台風による身体の影響などについてご質問をされいろいろと暖い思いやりを示されていた。

午後は再び雨に見舞われたりしたが、中央広場ではスキル・オ・ラマが開かれ6カ国のスカウトが参加、種目はいざれも歌と踊りで中国のスカウトが「竜踊り」を披露したのを始め、民族衣装の各國スカウトがその国独特の舞踊をみせ約3千人の観客をたのしました。浜松地区各団も昨6日7日にわたった多数の見学隊を繰こんだが、雨と予定した行事が流れた為で充分な交流や見物が出来ずに心を残して朝霧を去った。この日の一般見学者も3万名余数え開幕以来の人出であった。

第7日 大パレードに若人 8月8日 の祭典は最高潮



ピックパレード本部席

8日は久しぶりの好天に恵まれ大会のハイライト「ピックパレード」が大集会場で午後2時より繰り広げられ大会ムードは最高潮に達した。

国境を越え、友情と相互理解の「若人の祭典」は音楽と歌と踊り、華麗なパレードが次々と展開され、音と色が混然と調和された大交響樂につゝ、まれ、観覧席を埋めた内外スカウトや10万人の一般見物客を魅了した。

先ず日本ビューゲルバンドの入場で開幕、ボーイスカウト世界連盟加盟国旗99本が入場、各國派遣国の入場行進に移った。アフガニスタンを先頭としてアルファベット順にパレードがスタート、中国韓国の民族踊りから、民族衣装に身をかためた国々等で世界の民族衣装展を見る感じ。

大小10個のミコシが練り歩き、外国スカウトに演技に移った。

イギリスのスコットランド隊がハイランドダンスをバックパイプバンドの演奏で披露すれば、フィリピンはカラトダンス、日系三・四世で組織されているロスアンゼルス379隊のドリル演奏、インデアン踊り等で見物客を釘づけとした。次いで宇宙飛行士アームストロング氏が紹介されると会場は熱狂し、スカウト達が「氏めがけて殺到する始末。同氏は「皆さんは将来さまざまな苦難に立ち向うでしょうが、そなえよつねに」とがんばってください」と呼びかけ、世界の子らに深い感銘を与えた。

最後に日本の派遣団による華麗な旗の行進。赤、白、水色のジャンボリー旗4千本が会場を埋め、富士の峰と希望の虹を描き出しハイライトのフィナーレらしい演出となり「第13回世界ジャンボリー

の歌」の大合唱で幕を閉じた。
その夜、各サイト毎に小営火が行われた。

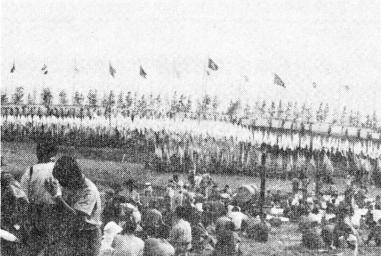
第8日 友情のフォーク

8月9日 ダンスで楽しく

大詫を目前にして、この日中央広場では延3,000人の各国スカウトが参加してフォークダンスが行われ、最後の交歓風景を展開した。

各国スカウトは自由行動になっているので、午後1時には続々と集合、地元の富士宮東高の女学生800人と日本のガールスカウト約200名が友情のダンス指導のもと草原一ぱい若人の輪をくり広げ楽しそうに踊り廻った。又隣の会場のスキルオラマにてお国自慢を披露する韓国や東南アジア、アフリカ諸国スカウト達はそれぞれの民族衣装で参加して、白と紺の女子高校たちの制服姿と交って樂しい一刻を過した。この他浜松方面へ社会見学に参加したグループもあった。

スイス隊40名が一足早く徹營して樂しかった友情の祭典の思い出を胸に引きあげて行った。又午後2時すぎ、地元富士宮幼稚園の園児ら36名が千羽鶴10万羽をもって各サイトを訪問、各隊より大歓迎を受けた。



ピックパレード富士の峰と希望の虹

第9日 名残りを惜しんで

8月10日 感動の閉会式

2日に開幕したボーイスカウト友情の祭典も途中台風に見舞われ大きな試練を受けつゝも天候回復とともに立直りよいよ別れを惜しむ閉会式を迎えることになった。

10日夕闇せまる頃より、各國の国旗、派遣団長が続々と入場。各派遣団長に日



寄せ書きも国際色で

本連盟から記念のタテが贈呈され、対する派遣団長代表の謝辞が述べられた。ブラジルのアンドレ・フレウリー君(14)が参加スカウトを代表し、参加出来た事を喜び、「スカウト運動の発展を願い日本のスカウトに感謝し、又合いましょう」と別れの言葉を述べ、最後に「そなえよ常にさようなら」と別れのあいさつをした。

石坂大会長の閉会の辞のあと、日本の旗と加盟国旗がおろされるとともに会場の後段から1,600本のたいまつがステージに移動、全スカウトの手にしたローソクが一斉に点火され、友情のともしびが場内を明るく照らしだした。やがて照明が消される頃、大営火が一層燃えあがり感動は興奮を呼びまさに最高潮となった。

第13回世界ジャンボリー旗、世界スカウト旗が退場し、全スカウトによる「別れの歌」に依ってタイムズとローソクがゆれ動き幻想の境地に包まれ、スカウト達も去りがたい気持になったことであろう。今田忠兵衛日本派遣団長の音頭で「いやさか」を力強く三唱しファンファーレ隊や、たいまつ集団がステージを去るとスカウト達がどこともなく飛び出して来て国旗を打ちふり、肩をくみ、ジャンボリーの歌を歌い若人のちのエネルギーが一度に爆発している様な光景が展開された。続々と打ち上げられる花火は実に1,500発、仕掛け花火が「さようなら」の文字と「白糸の滝」を描き出し閉会式を終了した。

期間中の一般入場者は約29万3千人、バス2千台、乗用車は4万台これだけ大勢の人達を動員した第13回世界ジャンボリーも閉会式を終え別れを惜しむスカウト達が去って行くとともに静かに朝霧は夜のとおりに包まれて行ったのである。

以上

忍

内田時世

スカウトは「ちかい」をたて「おきて」を実行していることはまちがいのない事実である。この頃の子はモヤシ型が多いと言われている、普通、考へるとモヤシ型とは、病弱型、うらなり型、ひよろひよろ型と考える、近頃の子はモヤシどころか、すばらしい体格であり、時には肥満児まで現われてきている。そのくせ体力は低下しているといわれている。心のモヤシ型が多いのであろう、どうしてだろうと自問してみた。

ある人が「人には自分でいくら努力してもどうにもならない面が多くあるが、その時こそ、本当の忍耐が必要である」と發

言している、私も「忍を行ずる者は有力の大人である」という座右の銘を父よりもらったことがある。「おきて」の中には忍耐という単語は書かれていません、その意味の言葉もない。どうしてだろうと専門家を参考した。

スカウトが「おきて」を実行するには、すべて忍耐が必要であるから、ことさら忍耐と書く必要がないのである。「おきて」の実行はそんな簡単なことではない。その実行には必ず忍耐が必要になってくるのだと、私自身も専門家を参考した。スカウトの信条はすでに忍耐という基盤の上に立っての「おきて」であると私は思っている。

99本の内外国旗

午前7時55分集結完了（野外活動センター道上に行進隊形にて）日本ビーグルバンド、ファンファーレ隊、W J 音楽隊（陸上自衛隊音楽隊）を先頭に1,500メートルを毎朝夕のパレードは見事であり、素晴らしい。一汗も二汗もかいたわけである。

午前8時30分、参加国旗99本を掲揚、午後6時降納するのが私達の一番主な任務である。掲揚し終り翻るが見える参加国旗を仰ぐ時、たとえようもない愛国心をそそられた一人である。

或る外国スカウトは、毎回自国のポール前にて、き然たる態度で敬礼している姿が焼きついて離れない、又自国の国旗を誇らしげに掲揚した、外国スカウト。我々掲揚隊の来るのをおそしと待ちかまえている中央広場の内外スカウト、一般、一ヶ月余のことではあるが、昨日の出来ごとのように想えてならない。

朝夕のデモンストレーション

最初はぎこちない歩き方ではあったが、度重なるにつれ胸を張り、足並みも揃い、G H Q通りを闊歩したことでも楽しい思い出の一つでもあった。『しっかりやれよ、『まってたぞ』

暴風雨の為に中止したパレードも7日の朝の小雨摸様をついて実施したパレード……

し本部（私のいる）大マーキーの下を川となって流れ出した始末である。食事をしている、テーブルの下を流れる水、もうこうなったら人工ではどうすることも出来ず、水の流れに従った次第である。

水の流れをながめ乍ら食事をするのもこれまた乙なものである。お蔭で6張程つなぎ合せた大マーキーも大阪ローバ（本部付）の必死の努力により倒れずに済んだことを見のがせぬ一つであった。

『おれ達は頑張るぞ』

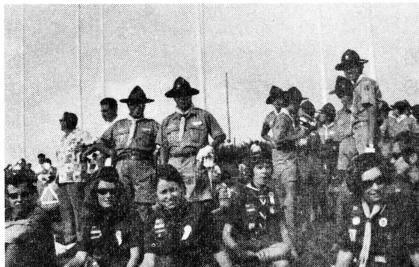
全員のスカウト達は、心に誓い最後まで頑張った事は得がたい体験であり、スカウト精神を發揮した一コマであった。

一万余のスカウトが避難した報に接したが、日本のスカウトが、大石寺、学校等避難したのは、ほんの一部分であることを確認し、ホットした次第である。（外国スカウトを優先したことでもわかる）また静岡奉仕隊本部を訪問した際も、掲揚隊が避難せない限りおれ達は避難せんぞ!!と雨中で、森本、後藤、渡辺、三室等タリーダーと笑い語った次第で2日間と云うものは、まったく忙しい身体であった。

本部のすぐ隣（下は）大阪隊であり、水の中に天幕が浮いている、水上生活者並みであった。またその下流は静岡隊であり2張がやられた次第で、午前2時頃

行進中における激励のヤヂも楽しいものであつた。また『足が違っているぞ、『しっかりやれよ、なにくそ……と思わざるものはない。ハットの下からほほにつたわり、えりくびをつたり、ヘその方へ流れる汗、往復のパレードでは2リットル（約1升）程の汗を出した事と思う程、ユニフォームもグショぬれであった。年のせいも手伝つて、つらかったパレードでもあった。又1日おきに、先頭をパレードした気持の良さも、つきせぬ想い出であった。

総勢284名これが我が掲揚隊の陣容である。（大阪90名、東京90名、神奈川45名、静岡48名……内浜松6名、本部11名……内浜松1名）90張の天幕を張った次第である。



アリーナにて 筆者中央

小生と原口氏のねている天幕にスカウトは一夜を明かしたものであった。

ホラ貝と通信連絡班

想い出に残った友情の一つである。まず我が掲揚隊サイト内への越境天幕である——非常によいサイトである——。伊東の松田岩吉班長以下10数名（細江杉山氏のところ）毎朝ホラ貝を鳴らす……最初は鳴らず……これも練習のたまものであった。

或悪天候の日、いつもの如く訪問である、ホラ貝は心地よく鳴り響く、すがすがしい朝であった（風雨まだりを除けば）或R S（大学生）小生に、コミッショナーとは知らず、誠に失礼な事を申しましてと来たから？小生は、此處はコミッショナーではないよ……仲良くやろうで、相互理解を深めた一コマであった。その詫は越境天幕における、小さなハブニングであった。

開・閉会式

リハーサルは我々掲揚隊にとって、苦しい時間であった。不必要的長いリハーサルも、前後の流れを考えると大切な時間でもあった。

まず99本の参加国旗を我々が掲揚しない限り、幕が開かないものである、正に誇り高き掲揚隊であった。栄光の曲と共に、するすると昇る99本の国旗、翻るが見える

浜松地区コミッショナー

三輪 悅爾

ハブニングの絶えなかった楽しさ

ファンファーレ隊である、掲揚隊の前を進発するのであるがタイコが早すぎて、足が合はず、二・三日後、場所替をしてもらい前記の順にパレードしたもので、今思うと楽しいやりとりであった。また大正野営区をパレード中、突然玉子が飛んできた——ならまだしも、3ヶも飛んできたものだから、ビックリもしたし頭へもきた。その為の調査やら、ガードもまた楽しみにかわった一コマであった。

笑い話で片づく様な、ハブニングは数限りない

風雨の中のサイト巡り、ドロンコになりながら、懐かしい、地区的スカウトを訪問し、明るい笑顔を見たときはジーンと目がしらがあつくなつて言葉も出なく『がんばれよ、がせい一パイであった。

或外国スカウトはビショヌレになり乍らズタ袋を持ちスワッペンに打ち興じていた姿は、ほ、えましくもあり、たくましくも感じた。恐怖におののいていた、或外国スカウト……。正にお国がらといえよう。

鉄砲水と食事

プレスセンター側（報道陣宿舎）から流れてくる水は、次第に量を増し、道路を越えて流れ出した水は鉄砲水となり、東京2ヶ隊のサイトを中心に水びたしに



中央広場の各国旗のもとで

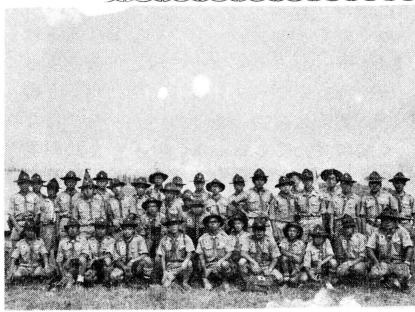
がえる国旗。

!!受持ちの国旗を保管管理上抱いて寝たスカウト達、ドロンコの中を元気で活躍したシニア達よ!!栗山総隊長以下284名、数多くの思い出を残し、輝かしい栄光の一頁を飾り第13回世界ジャンボリーを成功に導いたのもいつにシニア達の蔭の力も加わったからである、その成功に力強く誇りを送る1人である。

尚数年来この記念すべきジャンボリーを成功させた為に日夜、苦労なさったスカウター県関係者、閉会式の花火と共に肩を組み合い、涙を流し、喜び合った県連関係スカウターに心から感謝を捧げると共に、蔭の力として活躍された幾多の先輩がいることを、忘れずに栄光の一頁の中へ深く刻み込んでほしいと皆さんに強く呼びたい。

開会式に臨み、一人静かに目がしらをあつくし、この道の為に、励もうと心に念じたものである。——掲揚隊副総隊長——

第13回世界ジャンボリー参加記録



朝霧高原 飛鳥19隊サイトにて

参加人員 40名

ボーイスカウトには「世界兄弟」ということばがある。三つのちかいをたてて、ボーイスカウトとなり、三指の敬礼をし、三指の握手をすることは世界共通である。
 ①神と国とにまことをつくし、おきてを守ります。
 ①いつも他の人々を助けます。
 ①からだを強くし、心を健やかに徳を養います。という三つのちかいをたてて、誠実であること、友誼に厚いことを誇りとする世界のスカウトたちが一堂に会して、お互を理解し、友情を確認し合うのが世界ジャンボリーである。

第13回世界ジャンボリーはFor Understanding相互理解を旗印としておこなわれた。

私はこのジャンボリーに参加して、相互理解と一口に言っても、それがふたつに大きくわけられることを痛感した。ひとつは、普通に考えられる外国スカウトとの交流による国境をとりのぞいた相互理解であるが、それにも増してだいじな相互理解があることを。

今回のジャンボリーは、サブキャンプシステムを新しく採用した。G・H・Q(中央本部)の指令が全てS・H・Q(サブキャンプ本部)に伝達され、運営は殆んどサブキャンプにゆだねられた。そしてS・H・Qの指令が隊長にゆだねられる。プログラム運営の全ては隊長の責任となってかかるて来るのである。

S・H・Qの運営に文句をついているようではプログラムは少しも前進しないので、お互が、立場を理解して『従うこと、を第一としないと何もできないのである。まったく、大きな行事が整然とおこなわれるためにはお互が寛容に徹し、それこそ相互理解を身をもって実行しないとプログラムは進行しない。外国隊との交流もSTOPということになりかねないのである。

Subcamp名 飛鳥、 Troop #19 私の率いた総勢40名の派遣隊も、浜松市内、浜北市内、細江町、三ヶ日町、可美村の各団から選ばれたスカウトたちの混成で

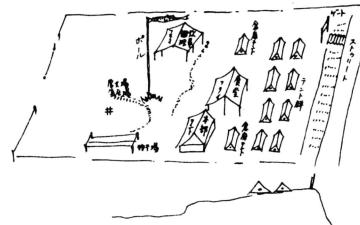
ある——参加隊は全てそうであるが——

私はまず自分の隊内の相互理解ということを重視した。

前もって二回の会合を持ち一回の訓練

Campを実施したが、その間にもメンバーの変更があったので、一級スカウトの技術と人格に大いに期待をし、安心感をもっと同時に、ばらばらの混成でうまくやって行けるだろうかという不安も抱いて7月31日朝霧高原に向って出発した。

飛鳥19隊のサイドはアーナ(大集会場)のすぐ近くで、地の利はたいへんよかったです。すぐ北隣が西ドイツ、南隣が韓国というように国際親善ができるように配置されている。到着と同時に弁当をたべながら設営のセオリードおり本部と班長との会議のもとにサイドの配置について決定する。(別図のとおり)



土地の傾斜を考えたり、これから始まる生活をよくするための第一歩なので隊員の生活が特に調理が便利なように考えさせた。土地の状態を考えた私たちのサイドの設計は、あの豪雨に対して水の流れがたいへん具合よく、全員で協力した結果がたいへんよかったです。

思いがけない豪雨は報道のとおり、殆どのスカウト隊が避難し飛鳥Campでも2000名のうち避難しなかったのは10隊に満たず、458名が雨とたたかしながら残留したのである。

避難か残留かの判断は全て隊長の考えに委ねられましたので状況判断がむずかしく思われた。私どもは日本隊として外国隊が避難したあとをがっちり守ってやろうということに結論を出した。

スカウトたちもこの大きな試練をのりこえたということが自信となって協力の精神がいっそうでてきたように思われた。

派遣団長のあいさつを日の丸の旗のもとでうける 8月2日午前10時

中央広場にて 日本派遣団結式

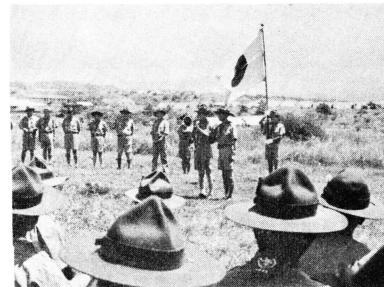
「日本のスカウトたちがホスト国の少年としていつもニコニコした顔で外国スカウトと接するように我々成人リーダーは奉仕するのだ」このことに徹してほしいという話であった。

隊員たちが病気やけがもなく、いつも元気に行動できるように考えることを第一義とすることをきもに命じた。

派遣隊々長 浜北第1団 外山吉保

富士の姿がとてもはっきりとすばらしい日であった。

開会式はこの日8月2日の午後に行なわれた。世界のスカウトが大集会場にあふれるばかりに整列し、万国旗の掲揚など華やかなふん意氣であった。藤山一朗先生(作曲者)の指導のもとにうたわれた世界ジャンボリーの歌「明るい道」の大合唱がすばらしかった。

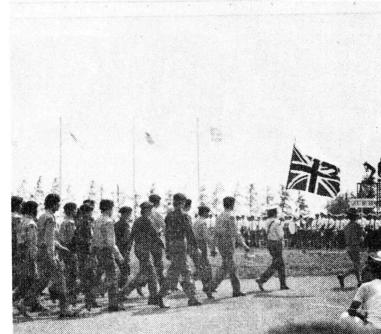


8月7日

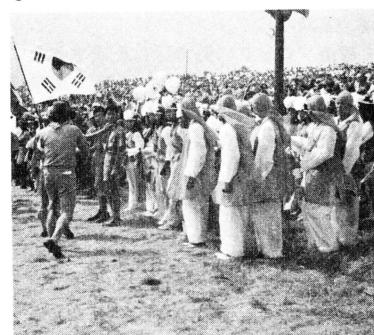
雨で延期になったビッグパレードでのイギリスはスカウト運動発祥の地である。

台風の試練にもうちかって、とうとう避難をしなかった国ひとつである。

ボーイスカウトの中心となるべきは、ぼくらだという気がまえがうかがわれた。

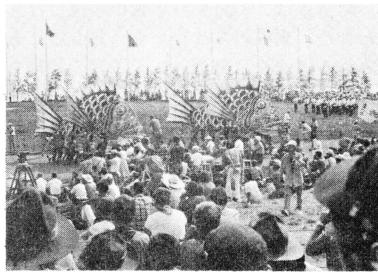


民族衣装もあざやかな韓国スカウト
韓国とは交歓營火をやったが、コーラスがとてもすばらしい、哀調を帯びた独特なメロディーが印象に残っている。



8月7日

アリーナショーでの日本の祭り紹介
これは愛知県の鯛まつりである。きれな鯛と勇壮な「ねり」、に入気があった浜松の凧あげも、実演したが、相当の人気をはくした。



西ドイツのスカウトとの交観

それぞれの国の歌をいっしょにうたったが、ドイツのスカウトたちはさすが音楽の国だけあってコーラスがうまい。

デュッセルドルフの音楽学校の生徒もかなりいるようだ。石川県との三隊合同の交歓営火、は実にすばらしい合唱を聞かせてくれた。



交歓風景

アメリカのスカウトは実に行動力がある。ひとりで、どんどんどの隊へも訪問して来る。このウイリー・マッククレラン君もその一人である。



世界ジャンボリーに参加して



浜松ッ子の見せどころ

四年に一度のボーイスカウトの祭典、ジャンボリーに、隊長として初めて参加した私は、どうしてもいろいろ悔いる事が多いのですが、その前に、どうにか派遣隊の隊長として、任務を果たし得たのは、立派なスタッフとスカウト、それから東海ブロックの野営区に配置されたことだと思います。ここに、紙上をお借りしてお礼を申し上げます。それから、忘れてはならないのは、留守部隊の浜松地区の皆さんへの暖かい激励と援助があったればこそと思います。

ほんとうに今回のジャンボリーで、教えたことは、人の和の重要性ということです。こんなことは、もうすでにあらためて言う必要のない程、わかりきっていることですけど、あの暴風雨の中で、

スカウト諸君も理屈ではなく、体験を持って学び得たものだと思います。ほんとうに雨により、私達リーダーとスカウト間の信頼が生まれ、又リーダーの役割分担制もスムーズに行ったものだと思います。後半、雨があがってからの行事の参加への盛りあがりなど、心に残るものがありました。ただこの様な状態が、初日から続くのが理想なのですが、事前キャンプの充実を心掛けなければ無理だと感じております。これらが混成隊の弱点かも知れません。

それから、世界ジャンボリーで、今回最っと目立つ点は、外国スカウトの気分転換のうまさと、それをリードするリーダーの巧みさでした。なにか本国スカウトは、生活面で今一つ精神的な強さが不足していたと思います。これは、参加意識の違いと、本国で開催ということで、何か甘えているような面があったことは、大いに反省しなければならないと思います。

又、今回私達の隊は、スタッフ一同、口やかましい人ばかりそろったのですけれど、班長会議、及び朝の点検、朝礼等で、リーダーが前面に出て、上班及び班長の影がうすかったことは、私達リーダーも反省しなければいけないですけど、常の隊活動等で、もう少し組織面の研究と、班長の育成が必要な課題だと思いま

我々のサイドへよく訪問してくれた。

「おり紙」に興味をもっているようで隊員も隊長もいつしょになって日本のおり紙紹介である。手先きもかなり器用で、何種類かを覚えてしまった。わたしが手ぬぐいで「ハッピ」をつくるおり方を教えてやったら大変よろこんで自分でなつてが行くまで何回も折り出来上がると喜び、覚えこんでしまった。将棋もまたたく間に覚えてしまった。サイドを訪問するスカウトとは歌と一緒にうたったり日本の柔道を紹介したりトランプをやったりなかなかかゆかいな、ひとときであった

長い期間だったので浜松市長さん、浜北市長さん（雨のときに見えられたがサイド訪問は出来ずに帰られた）浜北市長代理の方、そのほか各団の父兄の方が、入れかわり、わいしもを激励におでかけくださいり、過分なお心づかいをくださったことを深く感謝しています。みな様のあたたかいご支援がなければ、あの苦しい豪雨も、乗り切れなかったろうし、苦しみのあと、すかととした楽しみも味わうことが出来なかつたろうと、しみじみ思っている次第です。

派遣隊々長 小野田 将司

す。スカウトの自主性、自立性といった面を、もっと私達が考えてやらなければと反省しております。

なにも参加スカウトが、レベルが低かったとは決して申しません。それぞれの個性を出し、多くの外国スカウトと、相互理解のテーマを実践した者がほとんどだと思います。参加スカウトが、今後世界に対しての興味と理解を持ち続け、国境を越えた友情の芽生えを期待しております。

とにかく、形の上にあらわすことのできない大きな収穫があったと思います。今後それぞれの人生の中で、今回の体験、収穫されたものが、ふと顔を出すものと思います。そして、その時こそ、一回り大きくなっていくスカウトを発見するでしょう。



みこしでワッショイ

BS16団カブ隊 清明寮に宿泊交歓を行う

ボーイスカウト浜松16団のカブ隊は22日、浜松市新橋町の児童養護施設「清明寮」（鈴木勇寮長、寮生107人）に、舍營訓練を兼ねて交歓親善に訪れ寮生らと寝起きを共にしながら楽しい夏休みのひとときを過ごした。

同施設では恵まれない家庭環境に育った子らを強くたくましく成長させようと、ボーイスカウト分隊の結成を心掛けており、これを機会に今後さらに交流を深めで行こうと、同寮開設以来の宿泊交歓の成果に期待していた。

こうした宿泊交歓の形は、同団でも初めての試み。同寮にさる4月から勤務している袴田隆子さん（22）が、たまたま同団カブ隊の副長をしていた関係から実



現したもので、正しい規律や協調性を養うのが目的。親善訪問には、市立南小5年夏目貴志君（11）ら10人の隊員が参加し、寮側からはカブ隊員としての資格のある小学3年から5年生までの18人が出迎えた。

講堂に集まった子供たちは、さっそく初対面のあいさつを交わし歌の交歓をして心をなごませた。セレモニーなど約1時間の交流で早くも子供たちは友達となり、にこやかに話し合いをする光景も見られた。

カブ隊員らは寮の生活にならって寮生らと一緒に掃除や食事をし夜はキャンプファイヤーを囲んでぶり返した暑さを吹き飛ばしていた。また、就寝前のひとときはゲームや歌でつどい、貴重な夏休みの1ページをしました。

（8月23日静岡新聞）

SS夏の活動・セーリングボート・訓練

ジャンボリーのかたづけが一段落した8月19日～20日間、我々4団SS隊はセーリングボート訓練を行なった。

SS隊とは云え、活動出来るメンバーは6人と云う小人数であり、隊活動と云うより班活動を強いられている。地区内SSの横のつながりが続いているれば、昨年の様に各種の活動が出来るが、今年はどうした事か行なわれない。

春の集会で、年内を通じ「海」を中心に行々の人格形成をみがく事に決定した。その後、水泳訓練、海事知識の講座を持ったが世界ジャンボリー参加により、一時中断された。そして8月19日20日の2日間、浜名湖都築海岸にキャンプを張り、スカウト2名に指導者1名の上、D-ポート、モーター舟を用意した、ぜいたくな訓練が開催された。

第1日目

開所式に続きセーリングボートについての講義があり、続いて艤装と出入港の実習があった。午後は、風船のブイによ

る三角コースで一艇につき2名が乗り組み、基本航走の実習をした。途中タックが上手に行かず転覆したが救命胴衣を着けている上、非常時の講義を受けリーダーが近くでアドバイスをしてくれるので、すぐもともとどれた。

夜間は、通信方法の一つとして、銅沼SS隊員による、アマチア無線の運用がひろうされた。（J H 2 A G T）

第2日目

昨日にくらべ、かなり風浪がはげしい上、モーター舟の調子が悪く、D-



隊野営

B S 第16団少年隊 山田 進

出発、バスにのりこんだ。そして、すう時間たってバスからおり、目的地に歩き始めた。目的地につくと、ひと休みした。そして、隊長たちが荷物をはこんできた。テントをはる場所に荷物を運び、テントを張った。とてもいそがしかった。その後すぐ夕食のしたくだ。まず、水をくみに行き、食器を洗い、かまどをつくり、たき木をあつめ、火をつけて、ようやくおちついた。そして、かまどの番をしていた。夕食ができると、すぐ食べてしまえと、班長が言った。食べてしまうと、すぐキャンプファイヤーのしたくだ。キャンプファイヤーが始まると、いろいろ

ろ、おもしろいげきや楽しい歌が、くりひろげられた。心にのこる、いいキャンプファイヤーだった。そして、テントにもどり、ねるしたくだ。したが終わるとみんなと1時間ぐらゐわいわいさわいでいると隊長がきて、しかられてしまった。それから、しづかになった。あつくて、せまくて、とてもねぬくい、ねむろうとしてもねむれないのでこまつた。そのうち、すぐねむってしまった。朝になって起床の時間になつてすぐ外にでると、とても空気がうまかった。そして朝食の準備だ。きのうのように、いそがしかつた。朝食を食べたあとすぐ、食器を洗い、

すぐハイクをやつた。へんな道にまよいこみ、ようやくついた。ペプシを飲み一休みしたあと、橋をつくる作業にとりかかった。昼食を作る人と、橋を作る人にわかれ、ぼくは、橋を作る方になり一生けんめいやっていた。橋が完成した。

そしてテントにもどるともう昼食ができていた。はらいっぱいたべ、とてもうまかった。閉会式がおわったあと、バスにのり家についた。あとでいろいろ考えてみると、いいことを身につけ、大きくなつてもそれをやくだけていきたいと思った。

組織拡張委員会だより

県連組織拡張委員会報告

9月18日静岡市中央公民館に於て県連組織拡張委員会が開催され「3倍増達成後の諸問題と今後の組織拡張をどうするか」を議題として種々討議を行いました。以下概要について報告を致します。

昭和46年9月18日

出席者 浜松地区拡張副委員長

山中 将司

1. 脱落防止

A. 考えられる原因

- (1)隊長が居なくなった。(2)隊長が多く忙になった。(3)隊長が意慾を失った……いくつかの原因がある。(4)団委員会が非協力。(5)経済的の問題(6)団委員会と隊長の間の問題

この様な問題は総て担当コミが自分の担当している団に日頃接していれば早に対策が取られるものである。

B. 担当コミッショナーの責任態勢を作ること

- (1)団との結びつきを深める方法

- (2)担当団を調査診断する方法

(3)これらが地区コミ、地区委員会、県コミ、理事会と問題により順次有機的な繋がりにより解決がつけられる方法を取る。

C. 地区リーダー会について

- (1)研究機関としての姿を持って行く方法

(2)担当コミがかゝっている問題を地区リーダー会で、どの様に取り上げるか、又県コミ会議や理事会等で解決に協力しなければならない問題を提案する態勢を築くこと。

以上県コミ会議に研究を移譲

2. 今後の組織拡張

地区的組織が実際に動いていない所に教育の充実や運動の発展は望めないのであって、これは組織拡張運動を起す前の問題である。

地区的組織が軌道に乗り活発に活動して来れば自然に堅実な歩み出しが始まり、恒久的な発展の道を辿るようになる。世界ジャンボリーにより一般の認識が深められた現在、こゝでやらねばならない基本的な問題であろう

A. 地区三役会議を必ず持つこと

地区委員長、地区コミッショナー、地区事務長、この三者は地区の重要施策を推進する最高責任者である。この三者が三位一体となって常に地区内的重要施策を検討推進して原動力になることである。

(1)定例三役会議

地区内の建設的諸問題を検討し、それを実行に移して効果を讃げるためには、中心になる機関が必要である。それは、この三役がやるべきで少なくとも毎月定例日を設けて顔を合せ、骨子になる話し合いが行なえる態勢をつくること。

(2)今までこの三者が常に会合して地区内の基本的諸問題を検討し推進している地区が少ない。

従って、地区コミにまかせたり、

B S 静岡県連盟組織拡張委員会議案

地区的各運営委員会にまわしたり、

極端な所は地区事務長に背負わせてその場を凌いでいるものもあった。これでは責任の中心が、ぼやけているため、地区をまとめたり、盛り上がりに欠けている。

(3)三役会議の設置は地区委員長が呼び掛ける。

召集と記録の事務は地区事務長が行ない、地区内の各組織への連絡は地区コミと地区事務長夫々の分野に分けて果されるものである。

B. 三役に果せられた今後の重要課題

(1)団委員の研修会を開催

イ. 多くの団委員がB Sの教育と組織並びに団委員の任務を良く知っていない。これでは協力を望む方が無理で、地区は先ず団委員の研修会を行なうべきである。

ロ. 毎年幾人かの入換があるから年度の初めに毎年開催する習慣を作ることにしたい。

(2)地区内の各組織とその活動を再検討する。

イ. 各組織の人選をどうすれば良いのか?……

……組織だけ作っても活動しなければ無いも同様である。

ロ. 各組織の活動を活発にするためには?……

……組織が正常に動いていない所に発展は望めない。世界ジャンボリー終了後の諸問題を解決するために吾々に果せられた任務は、この基盤造りの一点にあると思う。

ハ. これらの重要な問題は総て三役が中心になって推進すべきである。

(3)県連理事会と地区との有機的な繋がりを作ることを研究されたい。

イ. 理事会に地区の運営面と、教育面が反映するものでありたい。

ロ. 地区に理事会の意向を、地区及び末端へ反映させる責任を果されたい。

C. BS運動の拡大を図るための方策

(1)地区が組織拡張の年間計画を樹てて、この教育の普及を図ることは、従来通り続けなければならないが、世界ジャンボリーにより、一般的関心が深められている現在、この運動がもっと市町村に根をはった運動に持って行き、恒久的な発展の基盤を築くことが心要である

(2)市町村、青少年育成会議へ積極的に協力

イ. 総理府が青少年育成の国民運動として、昭和42年に発足させた、県民会議は本年6月10日の総会で、県内全市町村に市町村会議の結成を急ぐよう呼びかけることになった。

ロ. B Sとしても、呼びかけられるのを待つでのなく、積極的に協力する姿勢を持つべきである。

ハ. 市町村内に団が設立されている所は、常に連絡を満にして協力することは勿論であるが、問題は1ヶ団もない町村では、育成会議を結成してもB Sからは誰も入っていないものになる。

二. 地区は管内町村で、団が1ヶ団もない町村に対し、町村育成会議結成に当って、担当地区をメンバーに加えてもらう運動を行なうと共に、県教育委員会に対し、その様な措置を関係町村に通達してもらうよう県連理事会から依頼する。

3. 隊長に対し知事表彰の道を開く運動を起すこと

(1)世界ジャンボリーにより、随分PRされたが、B S関係者以外の人は案外無関心で未だ一般社会の中に根を下していない。

(2)リーダーは職場の無理解から不利な取扱いをされたり、家庭の非協力に悩みながらも、時間的にも経済的にも相当の犠牲を払いながら熱心に、奉仕活動をしている。

(3)青少年を健全育成することは、国の責任であり、県としても重大施策の一つである。

(4)自己を犠牲にして直接青少年の指導に当り、国や県の施策に挺身しているリーダーは、当然感謝に値する貴い存在である。

(5)文化功労者や永年勤続の県職員は、文化の日に知事から表彰される道が開かれている。

(6)自己を犠牲にして、県内の青少年の育成に挺身するリーダーに

(7)毎年5月5日の子供の日を表彰日

にしたい。

(8)実現した場合の効果

イ. 青少年の健全育成の必要性を県民に認識させることができる。

ロ. リーダーの崇高な奉仕精神をえることにより、県民に対し、社会奉仕の尊さを啓発することができる。

ハ. 職場や家族の理解が深まる。

ニ. リーダーへの勧誘の助けになる。

ホ. リーダーにとって無言の励ましになる。

静岡県ボーイスカウト3倍増

運動達成状況資料

年 度	スカウト人口
昭和42年	6,079人
昭和43年	10,300人
昭和44年	12,300人
昭和45年	15,000人
昭和46年6月	18,599人

2.都道府県スカウト数上位5位府県

順位	府県名	S . 46 . 6 . 30 現在
1	東京都	26,564人
2	静岡県	18,599人
3	大阪府	17,292人
4	愛知県	12,980人
5	兵庫県	12,238人

3倍増を達成

3.人口割合順位(人口1,000人当り)

順位	府県名	S . 46 . 6 . 30 現在
1	静岡県	6.4人
2	島根県	3.1人
3	富山県	3.1人
4	石川県	2.8人
5	滋賀県	2.8人

運動出発当時2.1人で全国第5位

4.ボーイスカウト活動地区別拡大推進状況

地区	S . 42 . 9 . 30	S . 46 . 3 . 31	S . 46 . 6 . 30	地区	S . 42 . 9 . 30	S . 46 . 3 . 31	S . 46 . 6 . 30
下田	47人	131人	158人	清水	426人	699人	942人
伊東	102	239	386	静岡	1,086	1,831	2,342
熱海	84	157	志太	511	631	889	
三島	656	1,462	1,808	島田		689	1,023
沼津	439	1,281	1,613	掛川	113	285	400
御小	300	701	971	磐田	280	806	868
裾野	117	196	259	浜松	720	1,607	2,250
富士	297	859	1,071	浜名	378	563	762
富士宮	253	1,361	1,666	北遠	113	294	368
庵原	241	420	520	県連			146
				計	6,079	14,612	18,599

県指導養成委員会報告

9月18日県民会館に於て午後2時開会出席者

県連 尾崎、井野、県コミ内田各先生

地区委員長 三島一星山貞男、裾野一神戸良一、富士宮一小島義正 庵原一武藤喜作 清水一木下正一三 浜松一大橋、原口、浜名一村田伊佐雄 計8名

議題

①昭和46年度計画は世界ジャンボリーの関係県連にて計画し実施されて来ましたが47年度は各地区委員会に於て計画を立て実行に移す

②各地区共3倍増にともない指導員(リーダー)がなやみ47年度は一層リーダー養成に力を入れて実施する。

③団委員の研修会開催の件

浜松地区は之に対しても実施していますが、各地区共団委員としての実際の任務を知らぬ委員が多い様に思われるに依り研修会を開いて知って頂こう。これに対しては養成委員会に於て資料を造る。

④講習費の件

47年よりカブ隊は本年と同様 ボーイは1,500円 食費は実費 これ迄講習費は各

地区指導者養成委員長 大橋俊蔵

地区で負担して来ましたがこれからは地区に負担をかけない。

講習費は一式県負担

⑤ウッドバッヂ研修所の件

9月23日—26日、B S 朝霧野外活動センター井野包次 11月21日—24日、C S 、(コース)

団委員及びリーダー研修、修了書を県連に於て出す。尚、妻のある者には妻に表彰状を出す。
以上

野営衛生用具(隊単位)

(救急箱内容品 43・6・29 県連健康安全委員会決定)

浜松地区 発行
46・8・27改正

(材 料)	(内 用)
油 紙	アスピリリン錠(0.5g)
三 角 巾	クロタオニン錠(50mg又は250mg)
脱 脂 線	三共胃腸錠(5錠)
ガ ゼ	総合感冒錠(三共ルルルなど)
滅菌ガーゼ(リバガーゼ)	トラベナミン錠
鉄	ババスト錠
ビンセット(耳用・普通)	ラキントン錠
毛 披	レタク錠又はペロキノン錠
包 带(4, 6, 8裂)	(外 用)
綿 杆	イチヂク浣腸
休 溫 計	オキシドール(オキシドール)
紳刺育(パンドミードを含む)	キシロ軟膏
リ ン ド 布	クロロライセチン軟膏(クロマイ軟膏)
眼 带	消毒用アルコール
レスキュープアーチ手呼吸器	トクホン ペナバスター 2%マキニクローム液(赤チン) ロート目薬

●注 意 ●

- 1 救急薬はアイウエオ順に記した。
- 2 救急薬は名の如く救急用で全く一時おさえのものである。薬を与えたから治療が行き届いたと思いつがえてはならぬ。薬品だけが万能ではない。
- 3 症状は千差万別の症状をひじておこってくる。又症状が似ていても全然別の病気で痛みがあることもある。
- 4 痛みは欠いていての病気に共通した症状である。症状は病気をなすために自然に身体にそなわった働きであるから、もやみに症状だけをおさえても治療にならない。
- 5 例えば、ぬかるみの道路(症状)に土砂をまくと(投棄)一時は普通の道のように行き通れるが、それが地下下道をひらき廻してあつたため(原因、病気)であるならば、又必ずもつひどくなつてからむににくいということを考えなければならない。
- 6 同じ症状でも片目を切つて眠きだけそろえてても治療にならぬことは分り切つてある。だから頭痛も、体温も、腹痛も、頭脳炎も、発熱も、熱さなどの使用は原因を見きわめにむやみ則読みにやるべきではない。
- 7 野営地での一晩しきであることを考えながらやるべきである。
- 8 又薬も千差万別であるが、その中わずか10数種で間に合わせようというのだからいささか無理があることにも考え方ねばならぬ。
- 9 表示した症状でもありますけれども、又表以外の症状(けいれん、意識不明、出血、嘔吐など)の場合は必ず専門家に連絡しなければならない。
- 10 他の環境衛生のため逆性石けん、生石けん、D.T.Tなどを野営に使用することをおそれること。

薬品名	内 服			外 用		
	アレルギック クロタオニン ビリハベル ソノン ソノン 250錠 ソノン 錠	三共 共合 オルニナ ラベル スルコ ラム	トランク ラベル スルコ ラム	オキシ クロマ ギン ローフ ラム	ヤクニン マジック アルコ スルコ ラム	ヨーロ パク スルコ ラム
大 1回量	1 2 1-2 3 2-3 2 1 2					
人 1日量	3-5 6 4-8 9 6-9					
ボ 1回量	2-1 1 1 2 1-2 1 1 1					
ライ 1日量	2-3 3-6 6 3-6					
頭 痛 ①		②				
の ど 痛 ①		③				
た か い ①		③				
あ く え き ①		2				
か ぜ せ き ② ③ ①		○				
下 痢 腹 痛 ② ③ ①						
消 化 器 便 秘				○ ○		
細 菌 感 染 症				○ ○		
睡 眠 鎮 静 用 ②				①		
求 物 酒 い ①				○		
外 用 消 毒 薬				○ ○ ○		
点 薬 葉 (めぐり)					○	
打 槌 槌 槌 性						○
皮 虫 さ せ れ ①						○
病 や け ど ① ③						○
か ゆ み 止 ① ②						○ ○ ○
備 考 *	田中は細菌感染とは扁桃腺炎、肺炎、赤痢、淋巴腺炎等細菌が原因で起る病気をいいう。					
	クロタオニンは元来専門医の下で使用すべき薬品であることを知つてもらいたい。					
①②	使用順位を一応つけてみました。					
	クロタオニンとクロマグマイト液内に有効期限あり 要注意					



見るからに強そうですね

世界ジャンボリーの反省会より

浜北第1団カブ隊

- ▲ 外国のスカウトたちとお話をしたこと。
- ▲ かん國の人たちと交かんをしたこと。
- ▲ 外国の人たちにサインをしてもらつたこと
- ▲ かん國の人が300年ぐらい前のお金を交かんしてくれたこと。
- ▲ 外国の人たちといっしょに写真をとったこと。
- ▲ アーナーの会場で外国のスカウトにコケシ人形をあげたら頭をなでてくれたのでうれしかった。
- ▲ 浜北からいっていたボーイスカウトの先輩にあえたこと。
- ▲ 富士急ハイランドへいったこと。
- ▲ ゴーカードにのったこと。
- ▲ ボートでお金を全部おとしてしまったけど、すぐ見つかったこと。

- ▲ 雨にふられたこと。
- ▲ 雨がふって白いくつがまっ黒になってしまったこと。
- ▲ 自動車サーカスを見ることができなかつたこと。
- ▲ カレーライスがとってもまずかった。
- ▲ ねる時たいへんやかましかつた。
- ▲ ごはんが多すぎてこまつた。
- ▲ レインコートのそでがやぶれてしまつてつらかつた。
- ▲ 洋服がびしょぬれになつたこと。

- ▲ 雨がふって洋服がびしょぬれになつたのに会場の方へどんどん進んでいつてつらかつたけど、とってもいい思い出です。
- ▲ またジャンボリーに参加したい。



キモノ娘は大モテ

う ご き

- | | |
|--|--|
| 7月2日 | ブラジル交歓運営委員会 法林寺 |
| 3日 | カブラリー準備 中田島砂丘 |
| 〃 | 地区コミ会議 県民会館 |
| 4日 | 地区カブラリー 中田島一帯 |
| 〃 | 磐田地区委員講習会 福王寺 |
| 5日 | ブラジル交歓について静岡テレビと打合 法林寺 |
| 〃 | ジャンボリー見学者バス計画懇談会 法林寺 |
| 9~12 | パイ大中央教室奉仕 朝霧野外活動センター |
| 18日 | ジャンボリー派遣員打合 法林寺 |
| 〃 | 説明会 天童生活会館 |
| 20日 | 地区委員会 法林寺 |
| 21日 | 説明会 船越町 |
| 7月24日 | 第13回世界ジャンボリー 朝霧高原奉仕隊出発奉仕 |
| 8月14日 | 一般行事 全体行事部 |
| 7月29日 | 等奉仕員出発奉仕 (洋弓、トランボリン、エキスカーション、クロスカントリー) 20名 |
| 8月12日 | 掲揚隊通信連絡) 8名(特別サービス、アマ無線、救護配給広報) 7名 明治野営区5名 |
| 7月30日 | 第13回世界ジャンボリー 朝霧高原派遺員出発参加 |
| 7月28日 | 説明会 (B S) 天童生活会館 |
|  <p>飛鳥19隊ゲート</p> | |
| 7月30日 | ブラジルスカウト交歓会 内山海岸 |
| 8月20日 | 青少年活動推進員懇談会 松城町自衛隊クラブ |
| 21~22日 | 市パイ大奉仕 市青少年の家 |
| 24日 | 隊長定例研修会 法林寺 |
| 26日 | 看護生徒キャンプ打合 医師会館 |
| 9月4~5日 | 地区コミ会議 熱海瑞雲館 |
| 4日 | 看護キャンプ説明会 医師会館 |
| 7日 | 地区内コミ関係者会議 法林寺 |
| 9日 | 野営行事委員会 法林寺 |
| 11日 | 隊長定例研修会 法林寺 |
| 12日 | 地区大会場下見 浜北森林公園 |
| 〃 | オリエンテーリング(S S) 下見 クスカウト大会準備会 法林寺 |
| 16日 | スカウト大会準備会 法林寺 |
| 18~19日 | 看護生徒キャンプ指導 芝形野外活動センター |
| 9月19日 | 審査 (B S 引佐 2 団) 金指小学校 |
| 9月20日 | 地区委員会 法林寺 |
| 23日 | 地区大会プロ大会 法林寺 |
| 23日 | WB (B S コース) |
| 26日 | 研修新奉仕 朝霧野外活動センター |
| 28日 | 地区大会代表者打合会 法林寺 |
| 10月5~10 | カブ実修参加2名 那須野営場 |
| 9日 | 定例研修会(リーダー) 法林寺 |
| 13日 | 地区名子会議 地区委員長宅 |
| 16日 | 地区コミ会議 静岡保健会館 |
| 21日 | 地区大会打合 法林寺 |
| 23日 | S S ラリー (地区) 森林公園 |

- | | |
|--------|-----------------------|
| 10月24日 | 地区大会 (B S, G S) 森林公園 |
| 26日 | 進歩委員会 栄やっこ |
| 〃 | 需品関係会議 静岡事務局 |
| 10月27日 | 東海地区青少年シンポジウム 県民会館 |
| 11月6日 | 地区コミ会議 静鉄会館 |
| 8日 | 地区内コミ関係会議 法林寺 |
| 13日 | 定例リーダー研修会 ク |
| 〃 | WB C S コース本部員会議 県民会館 |
| 19~20日 | 東海4県体育指導員研修大会 (伊東暖香園) |



語 ら い

あ と が き

- 世界ジャンボリーも過ぎてしまうとどうしても気が抜けたような数日か過ぎ去り本号の発行も遅れ気味になってしまった。
- 法林寺に於けるジャンボリー反省会には参加者見学者からいろいろな角度から珍談美談を含めた回顧談が出て楽しかった。
- これを記録しこねて編輯子は大失敗。「今しゃべったことは責任もって文字に表わして下さいね」と哀願したのに。
- しかし積極的に投稿してくれた方に深く感謝すると共に、未投稿の方も次号には必ず約束を守って下さることを念願して止まない。
- 写真も各位から寄せられて紙面に錦上華をそえて頂いたが中でも三輪さん高橋さんから力作を提供して下さったことについても紙面をかりてお礼を申し上げたい。
- もう少し時間をかけ、窓口をひろげ大衆動員してまとめれば、回顧特輯号としてもっと充実したものが出来たのであろう。この程度で後日読み返してみて、どの位皆様のお役に立つてもらえるだろうか。それでも編輯子としては出来る限りやつたつもりだ。寛容を乞う。
- 次号は新年号になるが、地区大会の記事や、ジャンボリー回顧談が続々と登場してくれることを期待したい。

(T・S生)

発 行 所

第45号

日本ボーイスカウト浜松地区事務所
浜松市利町70-4 児童会館内
TEL 54-0178
編集発行責任者 杉山友男
昭和46年11月20日 発行